

第2学年 国語科 学習指導案

1. 単元名 書写「行書に調和した仮名」

2. 単元設定の理由

《単元について》

中学校学習指導要領では、第2学年で「漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。」を指導するように示されている。第1学年では、漢字の行書の特徴を理解し、点画の連続や省略といった基礎的な書き方を学習している。第2学年では、漢字の行書に調和した仮名の特徴を理解し、丸みを帯びて次へのつながり（連続）を意識した書き方を習得できるようにする。

日常生活においては、授業中に板書を書写するなど、漢字と仮名を書く機会が多い。しかし、スピードがゆっくりであったり、逆に、速く書こうとして文字が乱雑になって読みにくいような字になってしまったりすることがある。そのため本単元では、読みやすく速く書けるようになることに重点を置いて指導する。また、漢字と平仮名を調和させるだけでなく、文字の大きさや、行や文字の中心の取り方、字間なども調和させる上で必要なことである。それらの点にも意識して書くようにしていきたいと考える。

【書写についての系統性】

学年	小学1・2年	小学3・4年	小学5・6年	中学1年	中学2年	中学3年
項目	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して、楷書で書くこと。 漢字の行書の基礎的な書き方を理解して書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して、読みやすく速く書くこと。 目的や必要に応じて、楷書又は行書を選んで書くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 身の回りの多様な文字に関心を持ち、効果的に文字を書くこと。

《生徒について》

(略)

《本時の学習活動について》

指導にあたっては、行書で書かれた例文の仮名を、3種類の書体のピースをパズルのように当てはめて、行書に調和する仮名を選ぶようにする。そして、選んだ理由を、既習内容をふまえてペアで考えさせ、学習用語の定着と、友達と楽しみながらも協力して学習課題を達成できるような活動にしていきたい。また、実際に漢字と仮名の交ざった文を書き、文字の調和だけでなく、全体の構成としての調和も考えながら取り組ませたい。


3. 指導計画（全4時間）

- ・第1時 1年次に学習した漢字の行書の特徴を確認する。
- ・第2時 漢字の行書に調和した仮名の特徴を理解し、漢字仮名交じり文を書く。 本時
- ・第3時 全体の調和を考えて、古典の一節を行書で書く。
- ・第4時 書いた作品を鑑賞し合い、自己評価・相互評価をする。

4. 本時の学習

- (1) 目標：漢字の行書に調和した仮名の書き方を理解することができる。
- (2) 目標達成のための工夫：ペアでパズルを用いて学習することにより、行書に調和した仮名の特徴を考えることができるようにする。
- (3) 準備：ワークシート、はさみ、のり、鉛筆、プロジェクター、実物投影機、ホワイトボード

5. 学習活動の展開

生徒の学習活動	形態	支援と留意点	評価（観点・方法）
<p>【導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の学習内容を確認する。 <p>【展開】</p> <p>1. 本時の学習活動を確認する。</p>	<p>一斉</p> <p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の手がかりとなるよう、漢字の行書の特徴を書いた短冊を黒板に掲示しておく。 本時の流れとめあてを確認する。 	
<p>めあて：漢字の行書に調和した仮名の特徴を見つけよう。</p>			
<p>2. 行書に調和した仮名を知る。</p> 	<p>個人</p> <p>ペア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 例文に合う行書に調和した仮名のピースを選び、例文を完成させるようにする。 なぜそのピースを選んだのか、理由を考えさせる。 既習内容を想起させ、「点画の丸み」や「連続」などの言葉を用いて理由を考えるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の行書に調和した仮名の特徴を見出している。 <p>【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p> <p>（ワークシート）</p> <p>< C → B ></p> <ul style="list-style-type: none"> 仮名の特徴を見出せない生徒には、漢字の行書と同様の特徴がないかどうかを問い、板書の短冊の言葉を使って説明するよう助言する。 <p>< B → A ></p> <ul style="list-style-type: none"> 仮名の特徴をいかにしながら、全体の調和を考慮して考えるよう促す。
<p>10の視点⑦</p> <p>個々の学びを見取って適切な支援を行うためには、あらかじめ想定される生徒の姿を具体的にしておくことが不可欠です。その際、つまりいている生徒だけでなく、十分理解している生徒に対しても新たな気付きや考えを深める働きかけをすることで、その後の学級全体での学びの質を高めることができます。</p>			
<p>3. 行書に調和した仮名の特徴を知る。</p> <p>（まとめ）</p>	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の行書に調和した仮名の特徴を確認する。 文字の大小や配置なども考慮することが全体の調和につながるということも伝える。 	
<p>4. 行書に調和した仮名を書く練習をする。</p>	<p>個人</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「いろは歌」を用いて行書に調和した仮名を書かせる。 	
<p>10の視点①</p> <p>本時の学びを生かすことができるよう、本時のまとめの後に、実際に仮名を書く活動を設定しています。1年生の学習で暗唱した「いろは歌」を題材とすることで生徒の意欲を喚起するとともに、「いろは歌」を提示する際に、一行だけ書体を変えて提示することで、漢字の行書に調和していないことを実感することができるよう工夫しています。</p>			
<p>【終末】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次時の学習内容を確認する。 	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> 次時は古典の一節を書くことを伝える。 	